

# むぎ公民館報

2024.9月~2025.3月 261号



祝 二十歳の皆様 おめでとうございます





# 令和7年 牟岐町二十歳の集い

令和7年1月3日(金)、海の総合文化センターにおきまして、「令和7年牟岐町二十歳の集い」が開催されました。

今年度20歳を迎えられる成人の人数は26名(男性13名、女性13名)で、式典には22名が参加されました。式典では杵富町長が祝辞を述べ、「皆さんには、日本を背負って立つ、豊かな教養と、健全な身体と高い情操を合せ持つ民主的な文化人たるべき責任を自覚した人間となられることを祈念し、お祝いのことばいたします」と締め括り、20歳を迎えられる皆様を激励しました。



## 令和七年 名簿

### 〔男性〕

井上 駿介  
後山 真太郎  
川添 大輝  
木下 桜  
近藤 ケンスケ  
羽里 実来斗  
若山 拓暉

岩崎 天輝  
小倉 晃誠  
河村 亮弥  
栗田 輝来  
外儀 蓮  
福田 壮真

### 〔女性〕

石本 萌華  
家段 柚香  
清水 羽菜  
百々 七那葉  
長尾 和奏  
福井 愛梨  
和田 祐生子

小澤 寿珠  
川添 明日菜  
谷井 亜由実  
百々 史佳  
樋山 晴菜  
和田 恵菜

計 女性 男性  
二十六名 十三名 十三名

## 代表答辞



百々 七那葉さん

20歳を迎えられる成人の皆様を代表して百々七那葉さんが、「20歳を迎えた成人としての決意を忘れず、力強く、たくましく、そして優しく生きていくことを誓い、皆様方のご期待に応えるべく努力してまいりますので、なお一層のご指導ご鞭撻をお願いいたします。」と答辞を述べられました。

## ピアノ伴奏



百々 史佳さん

## 意見発表(4名)



羽里 実来斗さん



石本 萌華さん



岩崎 天輝さん



百々 史佳さん

## 司会進行



後山 真太郎さん

## 記念品贈呈

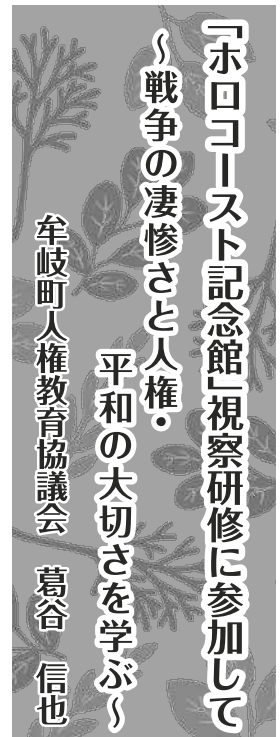


栗田 輝来さん(写真右側)



ホロコースト理事長の講話

「いったい、そう、いったい全体、戦争が何になるのだろう。なぜ人間は、おたがい仲よく暮らせないのだろう。」  
これは一九四四年五月三日に書かれた「アンネの日記」の一文である。  
海部郡人権教育協議会が毎年実施している県外視察研修に、牟岐町人権教育協議会から藤元会長を含め四名が参加した。本年度は、広島県福山市にあるホロコースト記念館で現地研修を行った。



牟岐町人権教育協議会 葛谷 信也

一九三五年にはニュルンベルク法というユダヤ人差別の法律が作られた。この法律によってユダヤ人は市民としての権利をすべて奪われ、劣った民族とみなされた。そして、第二次世界大戦が始まるとナチス・ドイツはユダヤ人を追放し、ユダヤ人だけが住むいくつかの地域「ゲットー」に集め、そこからアウシュヴィッツなどの絶滅収容所に移送した。そして、戦争の混乱に乗じてユダヤ人を絶滅

第一次世界大戦後、ドイツでは、国内で混乱が起こり、その後の世界恐慌により失業者が町にあふれた。このような中、「ドイツの威信を取り戻そう。すべてはユダヤ人のせいだ。」と叫ぶナチスが勢力を伸ばし、ユダヤ人への差別・迫害・追放を推し進めた。

「ホロコースト」とは、ギリシャ語で「火で焼かれたいけにえ」を意味し、現在では「ナチス・ドイツによる、六百万人のユダヤ人を中心とした大量虐殺をあらわした言葉」として知られている。

しようと大量虐殺「ホロコースト」が行われた。「ユダヤ人として生まれた」という理由だけで百五十万人の子どもを含む六百万人の尊い命が無残にも奪われたのである。

「アンネの日記」で知られるアンネ・フランクもホロコーストの犠牲者の一人である。

アンネが十三歳の時、迫害から逃れるためにオランダの隠れ家で家族とともに約二年間過ごした。

外にも出られず狭い隠れ家の中で、ナチスに見つかることを恐れながら過ごした二年間はアンネにとつてどれほど長く厳しい生活であつただろうか。「ただユダヤ人であるだけで、いつつかまって殺されてしまうかもしれない」との恐怖の中で、それでも希望を失わずアンネは自分の思いを日記に記した。

ホロコースト記念館の二階にあるアンネのコーナーには、この日記のレプリカが展示されていて、この「アンネの日記」は今も色あせることなく、人類に



アンネのバラとアンネの銅像

平和を訴えている。

この「アンネの日記」が世に出るようになったのには、オランダ人女性ミープ・ヒースさんが深くかかわっている。

彼女は、アンネたち隠れ家の住人に二年一カ月もの間食料や物資を届け、アンネたちを守つたのである。そして、アンネたちが捕まつた時も、アンネが書いた日記や文章を大切に保管し、収容所から生還してきた、アンネの父オットー・フランクに渡した。ユダヤ人をかくまつたとなると、彼女自身にも危険が及ぶことはわかつていたが、理不尽なユダヤ人差別に目をつぶることができずアンネたちを助けたのだ。

当時ほとんどの人が、ユダヤ人が連れ去られ虐殺されている事実を知っていながら、見て見ぬふりをしていた。そんな中でもミープさんと同じように行き場がなくて困っているユダヤ人を命がけて助けた人は少なくない。死や絶滅収容所の移送の脅威から救出した人の中に日本人もいた。

一九四〇年、リトアニア領事代理であつた杉原千畝さんは、二千四百四十通の日本通過ビザを発給して約六千人のユダヤ人の命を救った。当時日本は日独伊三国防共協定を締結していたが、杉原さんは正しいと信じて、勇気をもって実行した。

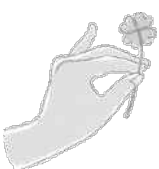
六千人のユダヤ難民は、多くの人たちの善意のリレーによって日本を経由し、自由の身となって安全な国へ渡つていった。

二十世紀に起こつた二度の世界大戦によって、民間人を含め数千万人の命が奪われた。この大戦の教訓から「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」で始まる「世界人権宣言」が生まれた。

二十一世紀は「人権の世紀」と言われているが、最大の人権侵害である戦争や紛争が今もなお続いており、多くの人の生命が奪われている。

昨年、「日本原水爆被害者団体協議会」が、ノーベル平和賞を受賞した。その授賞式で演説した代表の田中熙巳さんは、最後に「人類が核兵器で自滅することのないように！核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張らしましょう！」と結んでいる。

今回、ホロコーストの現地研修を通して、これまで知らなかった多くのことを学ぶことができた。人権・平和を大切にするため自分に何ができるのかを改めて考えることができる良い機会となった。





# 『パッチワークキルト O.Q.S 全国展 in 徳島』 を開催しました。

**期 間：**令和6年10月18日(金)～20日(日) / **会 場：**牟岐町海の総合文化センター

**来場者数：**約500名 / **作品出展者：**50名 / **出展作品数：**81点

**出展者の出身地：**北海道、宮城、埼玉、東京、神奈川、山梨、長野、三重、京都、鳥取、岡山、山口、徳島、香川(14都道府県)

パッチワークキルトは家庭で生活を  
楽しむ作品を作ることできます。ま  
た工芸美術として世に問う作品に挑戦  
することもできます。私はそれらの作  
品の前で見る人と作者が感動を共有で  
きたとき、その作品が完成するといつ  
も思っています。パッチワークキルト  
によって私たちの活動がきつとこれか  
らも生き生きと続くよう励んでいき  
たいと思います。

今回の全国展では、五百人余りの皆  
様にご来場頂き、私達一同嬉しい三日  
間を過ごしました。暗いニュースが多  
い中で一生懸命作った力作のカラフル  
で踊るような作品群は確かに来場の皆  
様がお元気になられて、「よかったね  
ー」「すごいねー」と言う感嘆の言葉  
を私達に発してくれました。

牟岐教室の生徒と徳島方面の講師た  
ちも協力してくれ、小栗加代子キルト  
スクエアの再度の結束もこの作品展に  
よって固まりました。お互いに話しな  
がら、笑い合いながら更にキルト作り  
と人間関係を楽しく長く続けていける  
要因だと思われます。これから皆様  
と一緒にキルトライフを楽しみにして  
いきたいと思ひます。

小栗 加代子

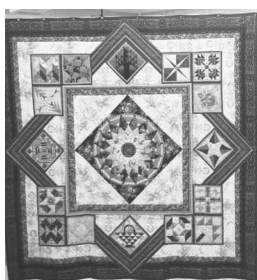
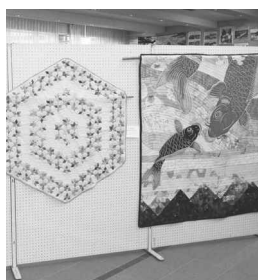
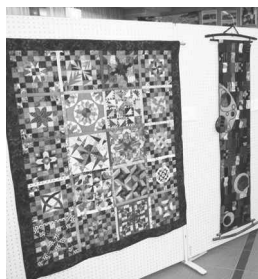
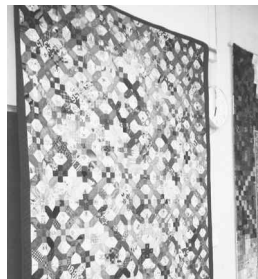
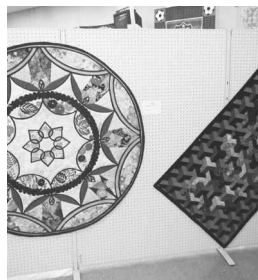


牟岐町公民館講座パッチワークキルト部の皆様  
前列の左から2人目が小栗加代子さん





## 作品展示の様子





# 牟岐町民共楽運動会を開催しました



## 選手宣誓

令和6年10月13日(日)、旧牟岐小学校グラウンドにおきまして、『令和6年度牟岐町民共楽運動会』を開催しました。

悪天候により午前中で打ち切りとなった昨年度とは打って変わって、晴天に恵まれた今大会では、老若男女を問わずたくさんの方にご参加いただきました。

採点種目ではチーム対抗の白熱した試合が繰り広げられ、福引大会では当選を喜ぶ子供たちの歓声が聞こえるなど、盛況のうちに大会を終えることができました。



## 小学生徒競走



## 青少年非行防止パレード



## 中学生リレー



## びん釣り競争



## バスケット競争



## すごろく競争



## ボーリング競争



## みんなでジャンプ(長縄跳び)



## 放送席



## 1500m 競争



## 綱引き



## まり入れ



## チーム対抗リレー



## 優勝旗授与



## 万歳三唱

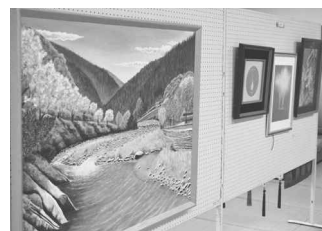


# 牟岐町文化祭 令和6年11月2日(土)~11月4日(月)

## 牟岐町海の総合文化センター



## 西又コミュニティセンター



## 河内活性化センター



## 文化の集い 令和6年11月3日(日)



## 地域の皆様と共に

## 市宇ヶ丘学園だより 第19号

今年度も「猛暑」の中、後半の学園生活をスタートすることになりました。自然との折り合いをつけながら、子どもたちは元気に日々の学園生活を送っています。今年度後半の活動の様子を紹介します。



牟岐小5年生とのふれあい

防災学習の一貫で、5年生がグループに分かれて0・1歳児クラスを訪問してくれました。一緒に遊んだり、手作りのおもちゃを持ってきてくれたりして、楽しく過ごしました。



牟岐中3年生とのふれあい

中学生が手作りおもちゃを持って遊びに来てくれました。遊び方を見せてもらったり、教えてもらったりして一緒に遊び、触れ合うことができました。



ヘルスメイトさんと一緒に

ヘルスメイトさんによる食育劇を見たり、一緒に“やさいだいすき”に合わせて踊ったりし、楽しい時間を過ごしました。



小学校6年生 イカの解剖

校長先生の指導のもと、イカの生態について学び、イカスミを使ってイカの絵を描きました。イカが減少していることを知り、生き物が生きやすい牟岐の海をつくっていくことの大切さを学びました。絵の出来はイカ画かな？



小学校4年生 ビーチコーミング

松ヶ磯ヘビーチコーミングに行きました。きれいな貝がらやシーグラスなど「牟岐のお宝」をたくさん発見することができました。一方で漂着ゴミが多いことにも気づき、豊かな海を守るため、海の環境学習にも取り組んでいます。



小学校2年生 本町サロンでの交流

10月、本町サロンに参加させていただき、地域の高齢者の方と交流をしました。一緒に歌を歌ったり、楽器を演奏して楽しく過ごすことができました。子どもたちは、昔の牟岐のお話を目を輝かせて聞いていました。



遠足

中学3年生が高松方面へ遠足に出かけました。うどん作りをはじめ、様々な体験を楽しむことで、学年の結束力をさらに高める良い機会になりました。



修学旅行

中学2年生が沖縄へ2泊3日の修学旅行に行きました。リモート交流でお世話になっている南風原文化センターを実際に訪れることもできました。



郷土料理教室

地域の方々のご協力のもと、中学1年生が郷土料理に挑戦しました。地域の方々との会話を楽しみながら、自分たちで作った料理をおいしくいただきました。



## 牟岐短歌会



こづかいを 貯めて買ったる ガーナチヨコ

赤い小箱に 銀色の夢

枯れ色の 庭に水仙 あおあおと

冬目を溜めて 春を待ちおり

くねくねと 黒蛇のごとき 胃力メウを

背をさすられて ぐぐいと飲む

藤川 はやみ

お出かけ衣 くらいは自分で 決めなさい

妻は厄(八十九歳)年 すこぶる元氣

千年の 珊瑚が育つ 海の町

「牟岐あんどん」は 千年燈る

タナカテルミ 漢字で書ける 国々が

先ず核禁の 批准と書くこう※

※利一自解

ノーベル平和賞の田中熙巳(九十二歳)氏の、

名前の「熙」は、かがやく・やわらく、などの意

味を持ち「嬉しい」と同じです。今年には巳年です。

漢字文化の東アジアの国々から先ずは「核廃絶」への脱皮をと願って詠みました。

藤井 利一

空家ふえゆく 島なれど ピアノ弾く

若き漁師の 移住者もいて

いもうどの 服に米粒 ついてたと

つまんで見せる あね歴二ねん

大谷の 活躍に沸く 国あらは

戦火に明日をも 見えぬ国あり

杉本 雅代

信樂の 狸よメタボは 大丈夫か

総合検診の 通知が来たぞ

富士山に うさぎの雪形 あらわれて

里の人々 もみ時き始める

津軽には 七つの雪が 降るといふ

半年余りの 冬の間※

※誠次自解

太宰治の小説「津軽」の冒頭に、津軽の雪の名が七つ書かれています。歌手 新沼謙治の「津

軽恋女」で歌われるのも七つの雪です。雪を知

らない地方のわたしたちにも懐かしい雪の名で

す。「こな雪 つぶ雪 わた雪 みづ雪 かた雪

ざらの雪 こほり雪」

山岡 誠次

## ふたば川柳

藤井 利一(相生川柳から)

小豆植え ばあちゃん畔を あそばさず

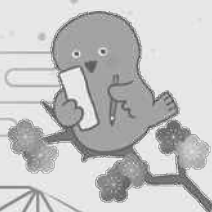
容姿端麗 吉永小百合と 競い合う

口論で お決めなさいと 憲法に

セメントで ないよ飛鳥の お寺さん

エラーだと 妻が笑って 言う牟寿

令和七年一月二十日





婦人学級紹介

今年度の活動の一部を紹介します。

昨年防災教室で研修したことをもとに、実際に牟岐の町を歩いて、過去の南海地震や津波のことについて学ぶため「防災ウォーク」を行いました。防災サークル代表の上田先生に案内してもらい、主に東地区で視察研修を行いました。大牟岐田の公園で震災記



南海トラフ巨大地震・津波が現実味を帯びてきていることもあり、みんな真剣に話を聞いていました。

これまでは、県外への研修旅行を行っていましたが、遠方への旅行が徐々に厳しくなってきたことから、今年は県内で研修を行いました。

最初に、二〇一九年に北島町に新しくできた徳島新聞印刷センターを見学しました。



令和6年度  
婦人学級活動実績



# 高齡者教室

高齢者の皆さんが日々の暮らしにおける知識と交流の輪を広げ、いつまでも元気で生きがいのある生活を営むことができるように、交通安全、健康、歴史、文化、福祉、環境、防災、消費者講座、研修旅行等、幅広い分野について勉強をしています。コミュニケーションの機会が増え、脳に適度の刺激が加わり活性化され認知症や寝たきり予防ためにもご参加ください。

- ## 六、防災講座（地震・津波）

今年度は、コロナやインフルエンザで毎月開催できていませんが、気を配りながら実施していきたいと思います。高齢者にはきょういく「今日行く」所と、きょうよう「今日

日の用」事が必要です。どんなにでも参加できますので、教育委員会までご連絡をくだされば案内のハガキをお出しいたします。





## シラタマ学級報告



シラタマ学級は、牟岐小学校 4・5・6 年生を対象に普段の生活では体験できないような、もの作り体験や自然体験学習などを行っています。

☆令和6年11月16日(土) 牟岐和紙手漉き体験 講師：牟岐あんどんの会 娃佳哩



スポーツ／文化活動／ボランティア活動

団体活動のための補償制度

小さな掛金 大きな補償

# スポーツ安全保険®

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動、レクリエーション活動などを行う4名以上のアマチュアのクラブ・サークル・グループが加入できます。



保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

インターネットでかんたん加入

<https://www.sportsanzen.org>



# 人のうごき

令和7年・3・1

総人口 3,404人  
男 1,594人  
女 1,810人  
世帯数 1,870戸  
高齢化率 54.17% (65歳以上)  
令和6年9月からの出生数合計: 3人  
(牟岐町で受理した出生届9月~2月末受付分まで合計)

お知らせ

『ご結婚おめでとう』  
『お誕生おめでとう』

は受付時、牟岐町に住所がある方で、掲載を希望された方を対象としています。

牟岐町外で届出をされた方で、公民館報への掲載を希望される場合は、

★牟岐町海の総合文化センター  
(TEL 72-0107)

又は、

★牟岐町役場 住民福祉課  
(TEL 72-3415)

までご連絡ください。

## ご結婚おめでとう

令和六年九月  
谷野 翔 (清水)  
齋藤 青空 (板野郡)

※掲載希望届け

令和六年九月~令和七年二月分まで



## むぎ公民館報 第二六一号

令和七年三月三十一日発行

印刷

福山印刷株式会社

発行所 牟岐町公民館

〒0884-172 0107  
0884-172 3388

徳島県海部郡牟岐町川長  
牟岐町海の総合文化センター内

### ● 訂正とお詫び ●

前号の「むぎ公民館報 第260号」に誤りがありましたので、次のように訂正致します。(敬称略)

- 二ページ目  
『令和六年度牟岐町社会教育関係者名簿』  
(誤) 喜来分館 副分館長 古谷 真昭  
主事 佐古山由美  
(正) 喜来分館 副分館長 (不在)  
主事 (不在)
- 五ページ目  
『中学校弁論大会』  
(誤) 牟岐中学校 三年 後戸遥斗  
(正) 牟岐中学校 三年 後戸遥都
- (誤) 読書友の会 副会長 藤川はやみ  
(正) 読書友の会 副会長 木本千代子

読者の皆様や寄稿して下さった皆様にご迷惑をおかけしてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

## お誕生おめでとう

令和六年十月

家中 伴樹・海里

次女 彩羽 (川長)

令和六年十月

中田 寅寿・瑠実

長男 璃士 (杉王)

令和七年二月

青木 貴信・吉田 茜

長女 千桜 (川長)

※掲載希望届け

令和六年九月~令和七年二月分まで



吉田 千桜ちゃん



家中 彩羽ちゃん

